

## 資料の目次

資料 No. 1 : ローカル・イノベーター養成コース概要

資料 No. 2 : 地域中核人材について

資料 No. 3 : 信大改革の概要

資料 No. 4 : 第3次長野県教育振興基本計画（抜粋）

資料 No. 5 : 3つのポリシーと学位の関係について

資料 No. 6 : 履修モデル

資料 No. 7 : 各分野と学系の対応について（専任教員）

資料 No. 8 : 国立大学法人信州大学職員就業規則

資料 No. 9 : 心理学分野 臨床心理学コース 時間割例

資料 No. 10 : 信州大学大学院教育学研究科心理教育相談室について

資料 No. 11 : 公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定する公認心理師となるために必要な科目の確認について（平成30年3月30日付け）

資料 No. 12 : 実習受入承諾書

資料 No. 13 : 論文指導等における教員の役割分担等について

資料 No. 14 : 研究不正の防止に向けた取り組みについて

資料 No. 15 : 信州ユビキタスネットシステム（SUNS）の概要

資料 No. 16 : APRIN 教材について

資料 No. 17 : 会議体制について

地域社会の中で実践し、将来を切り拓く力を掴みたい人へ…  
信州大学が挑戦する新しい学びが始まります

# 創

## ローカル・イノベーター養成コース

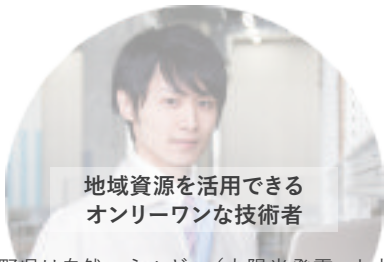
Local Innovator development

# 新



# キャリアイメージ

信州から始まる。地方を**革新する**人材育成の流れ。



地域資源を活用できる  
オンリーワンの技術者

長野県は自然エネルギー（太陽光発電、小水力発電、木質バイオマスの活用など）が地域資源の一つとなっており、本学でも研究が盛んに行われています。本コースでは、これらを地域社会に実装するために必要な市民の学び、合意形成、法律や利用制度などの課題を知り、インターンシップ等で実践する力を身に付けます。

- ・地域資源利用のための専門的な知識（※認定科目、学部専門教育）
- ・課題把握のためのリサーチ能力
- ・合意形成のためのワークショップ等の設計、会議ファシリテーション



社会を読み解く  
データサイエンティスト

データ・サイエンティストは、限られた予算や人的資源、時間などを分析・最適化し、精度の高い戦略やイノベティブな事業提案を行うスペシャリストです。本コースでは社会調査士などの資格を獲得可能な授業がありますので、それらを認定科目として受講しながら、現場で活用し、データ・サイエンスの実践力を身に付けます。

- ・リサーチ・リテラシー、データ分析手法（※認定科目）
- ・問題把握と課題設定の視点
- ・ワークショップ等の設計、会議ファシリテーション



地域に飛び出し  
自ら動く公務員

地域が抱える問題を知るためには自らが現場に足を運び、時には当事者となる必要があります。また、課題解決のためには、地域や役所内の人や部署を横断的に連携させた事業の創出が求められます。本コースでは、公務員志望者が地域での課題を体験し、それを解決するプロデューサー人材となる力を身に付けます。

- ・地域の声を聞くためのアンケートやインタビューリサーチ手法
- ・問題把握と課題設定の視点
- ・10年先を意識した政策や事業計画を立案する視点



地域コミュニティを支える  
社会起業家

中山間地域では、公共交通や買物環境が消失し、祭事などの文化も維持できなくなる状況が発生しています。本コースでは、連携している様々な企業や団体から、ITサービスやデザイン、事業創出の実践事例を学ぶことで、地域コミュニティの再生・維持に繋がるアイデアを創出・実現させる人材になる力を身に付けます。

- ・地域の風土・歴史・文化に対する過去と未来の視点
- ・人を巻き込むコミュニケーション・プレゼンテーション力
- ・資源利用のための専門的な知識（技術）

信州大学  
学横断  
全特別  
教育  
プログラム



## Local Innovator

ローカル・イノベーター養成コース



新しい学びを作る  
学校教員

人口減少・少子高齢化社会を迎える中では、その現場ごとの状況に合わせて解決方法を考える課題に子供達は取り組まなければなりません。本コースでは、教員志望者自らが地域課題解決の実践経験を積み、課題解決の現場で求められる「課題設定力」「創造力」「連携力」「適応力」を養う場を設計するノウハウを身に付けます。

- ・問題把握と課題設定に取り組む柔軟な視点
- ・地域とのネットワーク構築方法
- ・合意形成のためのワークショップや会議ファシリテーション



地域の業界を引っ張る  
団体職員

地域の企業活動や産業振興に貢献する支援事業を考案するためには、念入りな調査やデータ分析はもちろん、企業や関係者との信頼関係構築が必要不可欠です。本コース参加者は、インタビュー等から課題分析を行う基本的な調査能力を身に付けるほか、インターンシップ等で、プランニングやワークショップ運営を学びます。

- ・問題把握・課題設定のためのリサーチ能力
- ・合意形成や集合知のためのワークショップ運営ノウハウ
- ・事業プランニングとマネジメントスキル



次世代の  
経営者候補

企業経営においては、ブランド経営や新たな企業価値/評価に対応した知識や経営ノウハウが必要です。また自治体でもEvidenceベースの政策策定が求められています。本コースでは、グローバル企業や大手企業の経営者、行政の首長らからの講義・ディスカッション等を通じて、未来志向、組織マネジメントの視点を学びます。

- ・未来を見据えた持続可能な事業構想視点
- ・社会的な存在価値のある事業構想視点
- ・ブランド構築に対する知識と経験値

## MESSAGE

- ・自分の生まれ育ったまちに元気を！
- ・将来のキャリア選択肢を増やすための力を！
- ・地域・社会を変えていく取り組みにチャレンジ！

そんな熱意を持った学生の皆さん。

本コースと一緒に、地域の未来を担う

「ローカル・イノベーター」を目指しませんか？

# カリキュラムの全体像

地域社会の現場（ローカル）が抱える問題を的確に分析。  
革新的（イノベティブ）な解決策を考え、実践する人材を育てる場。

## 1 スタートアップ（1年次後期）

ローカルイノベーターとしての  
マインドを磨く

地域の問題の現場を自らの目で確認し、当事者から生の声を聞きます。また、授業では知識だけでなく、地域講師との対話やグループでのワークショップを中心として「考える力」「知識を活用する力」を育成し、アクション・リサーチの基本的な流れを体得していきます。



◆ポイント  
地域産業の様々な現場を訪問します。通常は入ることができないような特別な場所も見たり、体験することができます。

### ◆ポイント

地元の市長や日本を代表する企業の社長、地域で活躍する方をお招きします。普段の学生生活ではなかなか得られない機会です。



## 2 イノベーション・リテラシー（2年次前期集中）

問題分析と課題設定プロセス、アイデア創出手法の習得

様々な統計データ（RESAS等）の読み解き方、データ分析や表現（プレゼンテーション）のための基本的なリサーチ・リテラシーを学びます。また、インタビュー調査等の手法を学び質的に深い情報を引き出すトレーニングを行います。これらデータを基に集合知によってアイデアを創出するワークショップ手法等を実践的に学習します。

### ◆ポイント

情報機器の発達に伴って様々なデータが取得可能になり、それらが集積されたビッグデータの活用に注目が集まっています。データ分析のスキルを習得することは将来の就職においても優位です。



## 課外活動での実践

### ◆ポイント

コースに関連する様々な課外活動等を紹介しています。アルバイトとして参加できる活動を多数用意し、コース受講と生活の両立を支援していきます。



## 4 課題解決インターンシップ（3年次前期集中）

専門教育・コースで培った力をリアルな現場でさらに磨く

地域企業や行政、地域団体等の現場へのインターンシップを実施します。地域や組織が抱える問題の分析から課題の設定を行い、限られた時間や条件の中で人々と協力しながら課題解決の実践に取り組みます。それぞれの専門分野で養ってきた知識や能力、またローカル・イノベーター養成コースでの経験知をさらに深めます。

### ◆ポイント

提案や実践した解決策はプレゼンテーションを行い、社会から評価を受けます。それによって自信とさらなる向上心を身に付けます。



## 3 リアル・プロジェクト マネジメント（2年次後期集中）

企画・運営の実践を通じて  
事業の全体把握やタスク管理、  
チームによる連携を学ぶ

学生が主体となって、「ローカル・イノベーション・フォーラム（仮称）」の企画・運営を実践します。OJT（On the Job Training）方式で、会場確保から基調講演者の調整、進行台本等の作成、チームメンバーの適切な役割分担や協働のマネジメント等を学生が主体となって実施します。



### ◆ポイント

学部を超えて一緒に取り組むことで幅広い・深い人的ネットワークが構築されます。卒業後の仕事の連携やプライベートでの遊び仲間がさらに広がります。



# 履修方法

## 対象者

【対象】 平成29年度以降の信州大学の学部入学者

(原則、所属学部等による受講制限はありませんが、自身の所属学部のカリキュラムが優先されます)

【定員】 各年度20名以内

(履修希望人数の多寡に関わらず、単位や成績状況等を加味した上で選抜します)

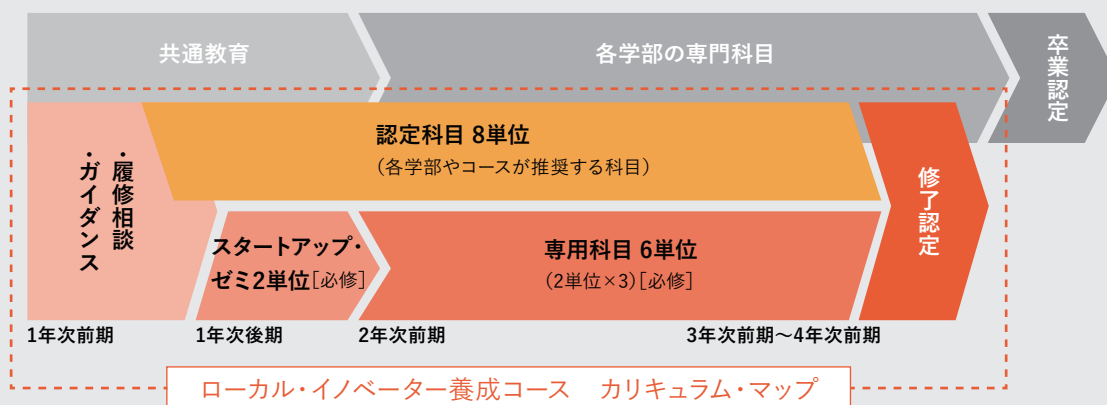
## 修了認定要件とコースの概要(カリキュラム・マップ)

【認定要件】 全16単位を所定の評価以上で取得すること

- 認定科目 8単位
- 専用科目 8単位 (スタートアップ・ゼミ2単位含む)

【履修期間】 1年次後期 (スタートアップ・ゼミ) ～ 3年次前期 (課題解決インターンシップ)

(所属する学部等のカリキュラムの都合に応じて、最長4年次前期修了も可能とします)



## 【コースの概要】

- ① 履修希望者は、1年次後期に開講される「スタートアップ・ゼミ」を受講する [必修]  
2年進級時にコース履修希望者の中から選抜を行い、本登録をします
- ② コースの在籍期間終了までに「認定科目」を受講する  
認定科目は、全学教育機構や各学部から推薦を受けた既存の開講科目です。学部横断的に用意されています
- ③ 2年次以降、集中型授業で開講される「専用科目」を受講する

ウェブサイト  
公開中!

<http://www.shinshu-u.ac.jp/project/lid/>

最新コース運営情報や先輩の声など詳細が確認できます



スマートフォン対応

# 受講の流れ①

1年次前期

ガイダンス (4月初旬)

個別相談

1年次後期

スタートアツ



## ローカルイノベーターとしての マインドを磨く

地域の問題の現場を自らの目で確認し、当事者から生の声を聞きます。また、授業では知識だけでなく、地域講師との対話やグループでのワークショップを中心として「考える力」「知識を活用する力」を育成し、アクション・リサーチの基本的な流れを体得していきます。



### ◆ポイント

地域産業の様々な現場を訪問します。通常は入ることができないような特別な場所も見たり、体験することができます。



### ◆ポイント

地元の市長や日本を代表する企業の社長、地域で活躍する方をお招きします。普段の学生生活ではなかなか得られない機会です。

### スタートアツ対象科目

- 地域ブランド実践ゼミ
  - 課題解決実践ゼミ
  - キャリアデザイン実践ゼミ
- のいずれか一つ以上を必ず受講すること

希望確認・登録申請・審査

2年次前期

イノベーション・リテラシー

## 問題分析と課題設定プロセス、 アイデア創出手法の習得

様々な統計データ (RESAS等) の読み解き方、データ分析や表現 (プレゼンテーション) のための基本的なリサーチ・リテラシーを学びます。また、インタビュー調査等の手法を学び質的に深い情報を引き出すトレーニングを行います。これらデータを基に集合知によってアイデアを創出するワークショップ手法等を実践的に学習します。



### ◆ポイント

情報機器の発達に伴って様々なデータが取得可能になり、それらが蓄積されたビッグデータの活用に注目が集まっています。データ分析のスキルを習得することは将来の就職においても優位です。



## 受講の流れ②

2年次後期集中

### リアル・プロジェクト・マネジメント



企画・運営の実践を通じて  
事業の全体把握やタスク管理、  
チームによる連携を学ぶ

学生が主体となって、「ローカル・イノベーション・フォーラム（仮称）」の企画・運営を実践します。OJT（On the Job Training）方式で、会場確保から基調講演者の調整、進行台本等の作成、チームメンバーの適切な役割分担や協働のマネジメント等を学生が主体となって実施します。



◆ポイント

学部を越えて一緒に取り組むことで幅広い・深い人的ネットワークが構築されます。卒業後の仕事の連携やプライベートでの遊び仲間がさらに広がります。

3年次前期集中

### 課題解決インターンシップ

専門教育・コースで培った力を  
リアルな現場でさらに磨く

地域企業や行政、地域団体等の現場へのインターンシップを実施します。地域や組織が抱える問題の分析から課題の設定を行い、限られた時間や条件の中で人々と協力しながら課題解決の実践に取り組みます。それぞれの専門分野で養ってきた知識や能力、またローカル・イノベーター養成コースでの経験知をさらに深めます。



◆ポイント

提案や実践した解決策はプレゼンテーションを行い、社会から評価を受けます。それによって自信とさらなる向上心を身に付けます。



修了認定

+α

### 課外活動実践

コースに関連する様々な課外活動等を紹介しています。  
アルバイトとして参加できる活動を多数用意し、コース受講と生活の両立を支援していきます。



## ローカル・イノベーター養成コースのサポート体制



### メンター教員の設置

キャリア教育・サポートセンターの教員が、メンターとして皆さんの学びをサポートします。1人1人の希望や目標に合わせて認定科目の取り方から課外活動等の選択まできめ細かく対応し、各学部専門分野で培った力を現実社会の課題解決に活かす力を育成します。



### 数多くの地域の応援団

本コースの授業は、地域の自治体（市町村）、経済団体、県内外の大中小企業、地域コミュニティ、地域の活性化人材等との協働により運営されます。普通の学生生活では会えない方にお会いしたり、通常では行けないような場所、内容を学んだりできます。



### 経済産業省による支援

本コースは平成29年度経済産業省「産学連携サービス経営人材育成事業」による支援を受けています。

## ローカル・イノベーター養成コース以外でも「地域」を学べます

信州大学では、学生の皆さんが学問と社会の関わりを考えながら、目的意識を持って学べるようにシラバスに工夫をしています。本学が重視する3つの志向と7つの社会課題に関して、各授業がどのように対応しているかを確認することができます。3つの志向とは、「地域」「世界」「環境」であり、7つの社会課題とは「中山間地」「芸術文化」「環境共生」「健康長寿」「防災減災」「多文化共働」「キャリア形成」となります。

現在、全てのシラバスに上記の志向と社会課題が示されており、授業と社会の関係性が分かるようになっています。検索の仕方は右図の案内チラシ（学生証受け取り後に配布）に記載されていますので、こちらも試してみてください！



## 色々な課外活動・イベントがあります！

### 例：協働事業型インターンシップ 伊那食品工業「かんでんぱぱワークショップ」

「日本で一番大切にしたい会社」でも紹介され、トヨタ自動車など多くの企業がその経営スタイルに注目する「伊那食品工業株式会社」。本学からも多くの学生が就職しています！その伊那食品工業主催の「かんでんぱぱワークショップ（以下WS）」を事業型インターンシップの場として活用し、信州大学と松本大学の学生10名が参加をしました。学生がWSの企画から参加し、来場者の小学生とその親のおもてなしをする実践的な企画です。前期の授業で企業のことを知り、2週間以上話し合いをして準備を重ね、当日を迎えました。学生は会場づくりやアイスブレイクの企画、寒天を使った自由研究の補助等を担いました。



お問い合わせ先

国立大学法人 信州大学 キャリア教育・サポートセンター

TEL: 0263-37-2186/3164 (平日 9:00~17:00)

MAIL: career@shinshu-u.ac.jp



信州大学 全学横断特別教育プログラム  
ローカル・イノベーター養成コース

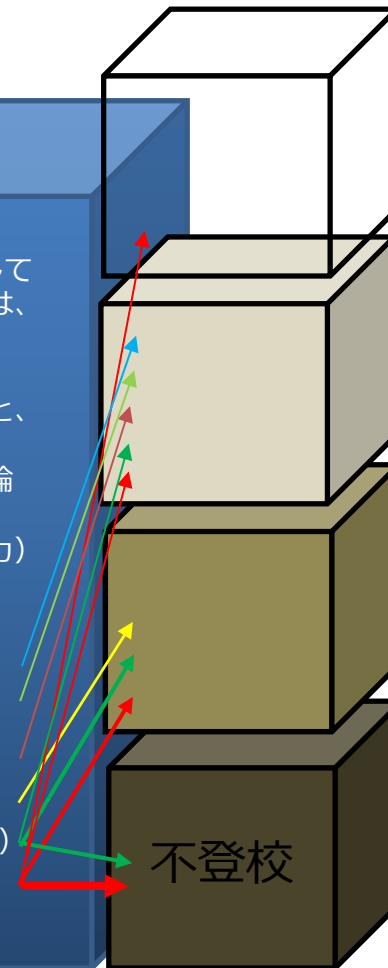


# 地域中核人材(課題解決)

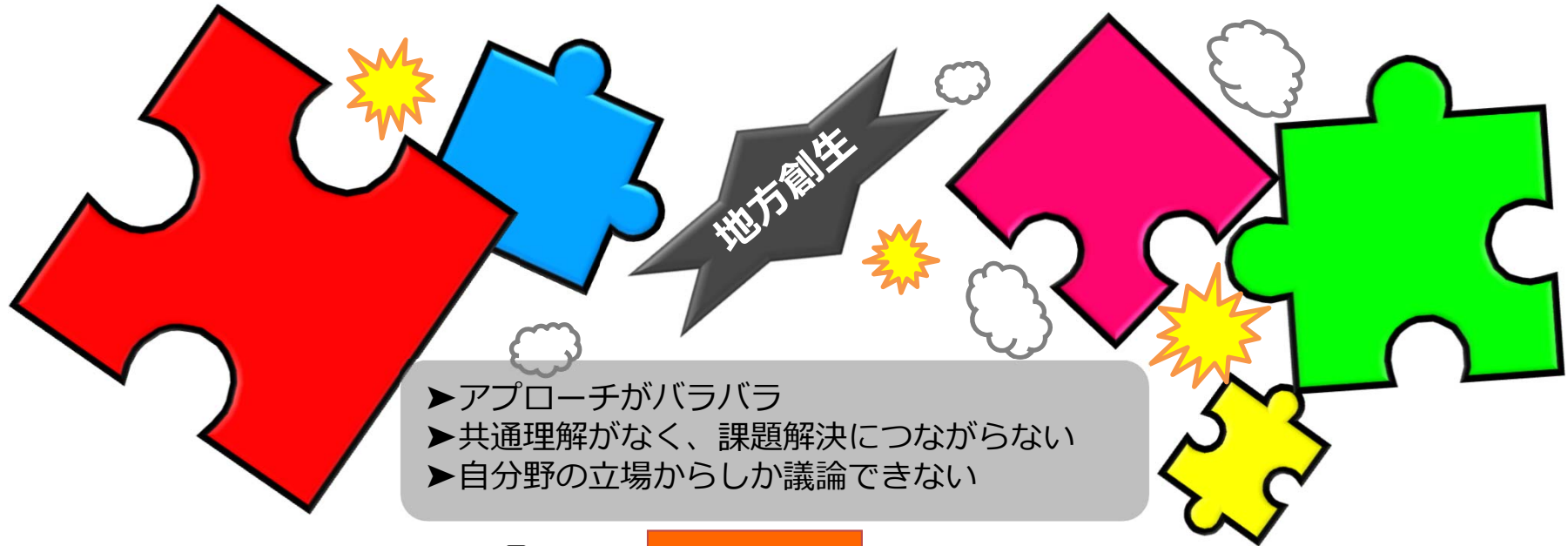
不登校という複数の要因が複雑に絡み合った重要課題に対してそれぞれの専門分野から取り組み、解決策を導き出すためには、専門分野の異なる地域中核人材が参画したチームを編成

- ①課題を分析するための手段に対しての共通認識がないと、同じテーブルに立って議論ができない(分析力)
- ②専門分野外のある程度の知識や手法の理解がないと討論に参画できない(俯瞰力・応用力)
- ③チーム内で議論し、新規解決策を提案できない(提案力)

- **自治体職員** (法律的側面からのアプローチ)
- **自治体職員** (経済的側面からのアプローチ)
- **教育委員会職員** (学習環境的側面からのアプローチ)
- **学内の同僚** (学習状況からのアプローチ)
- **学校カウンセラー** (人間関係的側面からのアプローチ)
- **担任教員** (担任としてのアプローチ)



# 地域中核人材(地方創生)

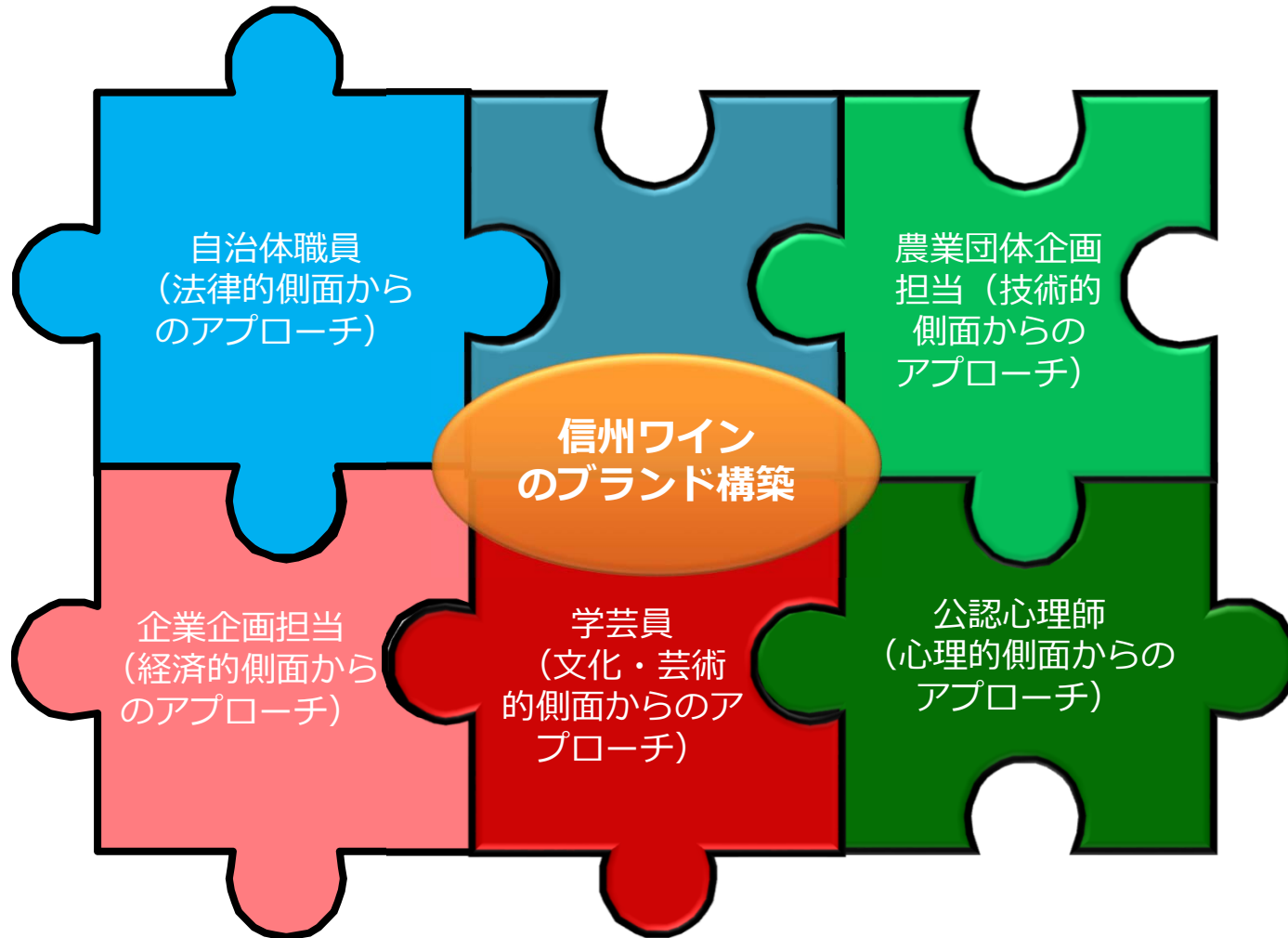


地域中核人材



分析手法等を含め  
他分野への理解がある  
各々の立場にありながら、  
共通の土台をもって  
効果的に課題解決を  
進めることができる

# 地域中核人材(ワインブランドの構築)

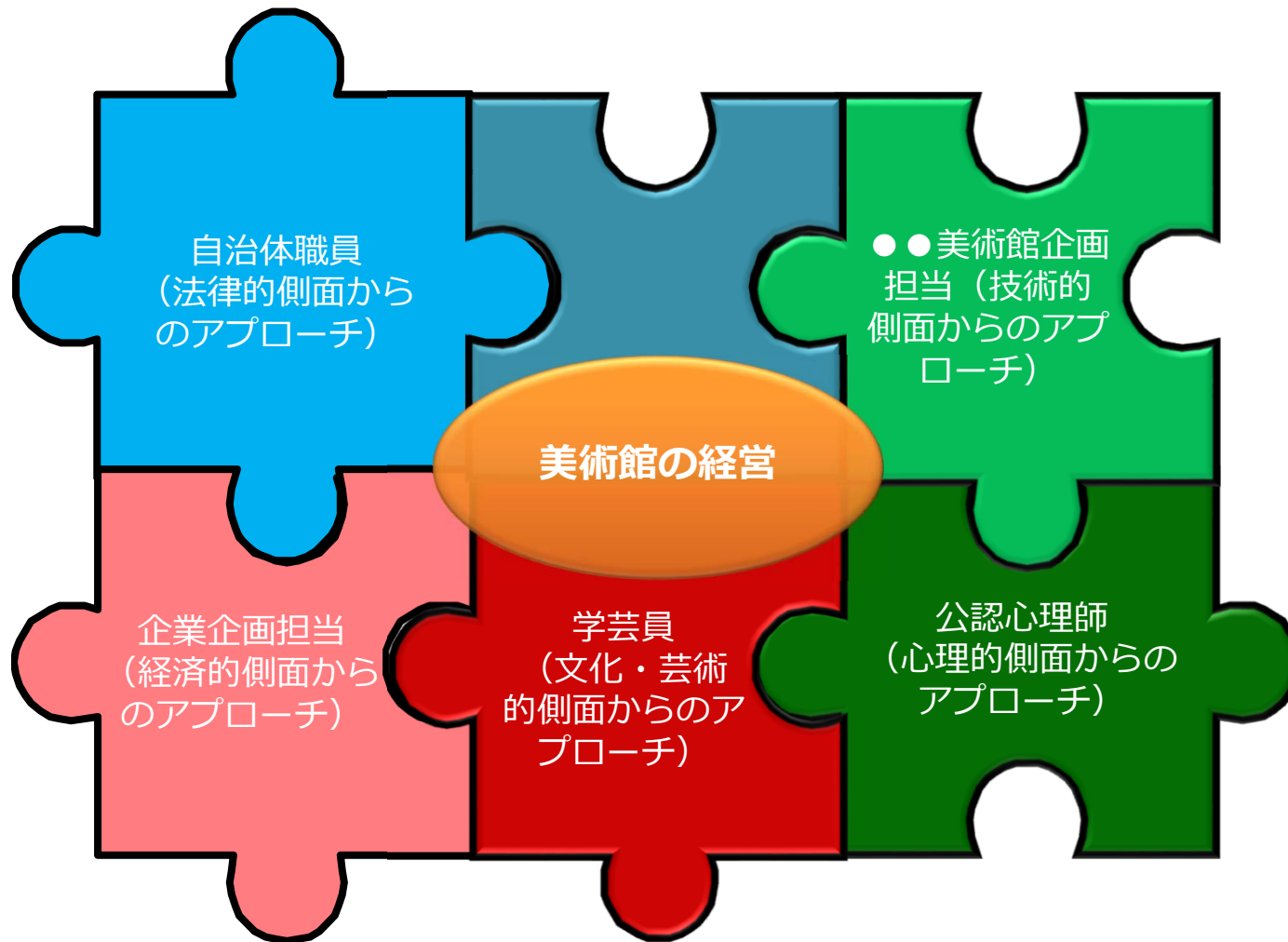


信州ワインのブランド構築という複数の要因が複雑に絡み合った課題に対してそれぞれの専門分野のメンバーが議論し、解決策を導き出すためには、

- ①同じテーブルに座って、議論課題を分析するための手段に対するの共通認識が不可欠(分析力)
- ②議論に参画するには、専門分野外のある程度の知識や手法の理解が重要(俯瞰力・応用力)
- ③チーム内で議論し、新規解決策を提案できる力が不可欠(提案力)



# 地域中核人材(美術館の経営)

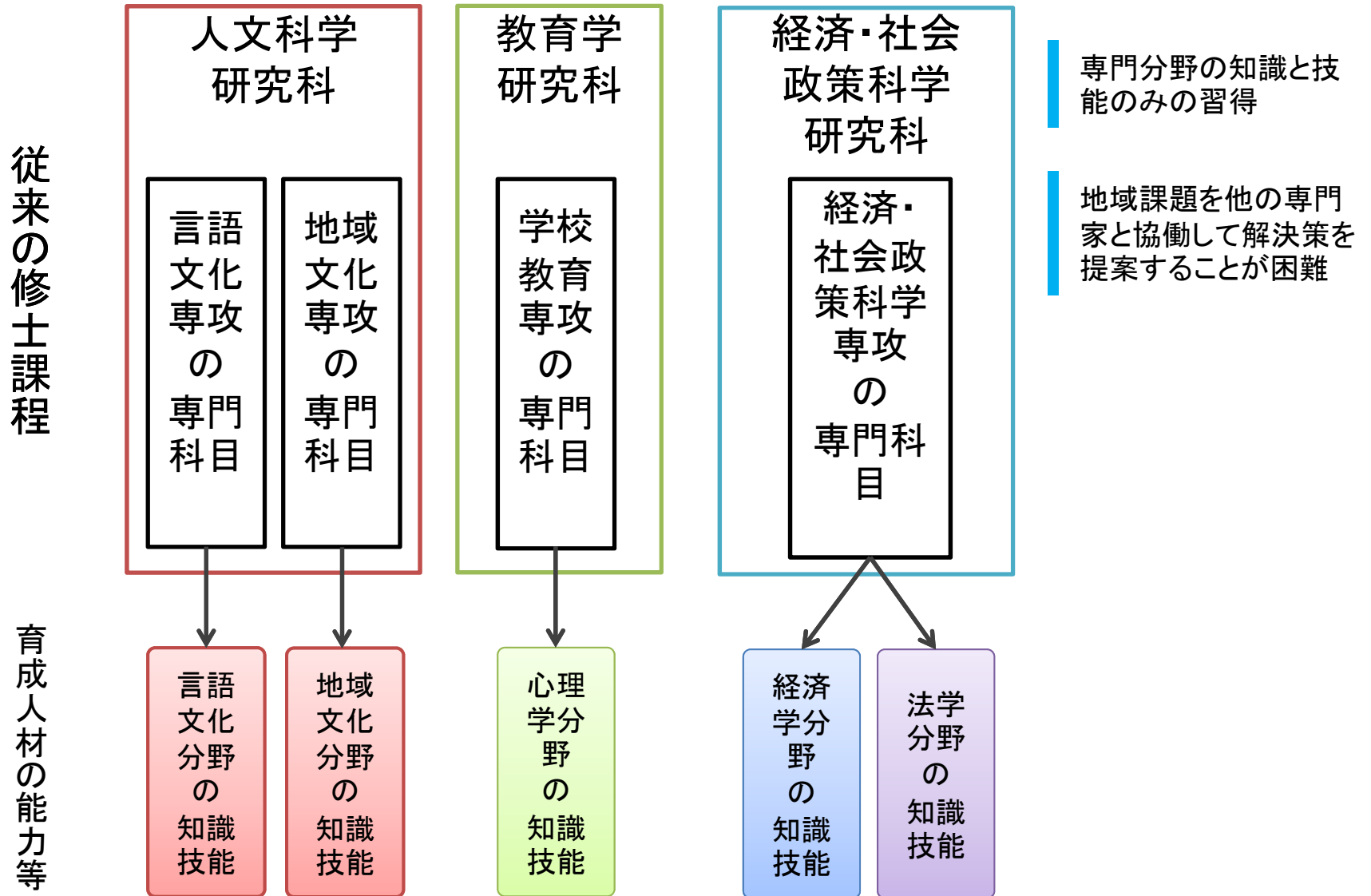


美術館や博物館の経営という複数の要因が複雑に絡み合った課題に対してそれぞれの専門分野のメンバーが議論し、解決策を導き出すためには、

- ①同じテーブルに座って、議論課題を分析するための手段に対しての共通認識が不可欠 (分析力)
- ②議論に参画するには、専門分野外のある程度の知識や手法の理解が重要 (俯瞰力・応用力)
- ③チーム内で議論し、新規解決策を提案できる力が不可欠 (提案力)

# 従来の文系修士課程

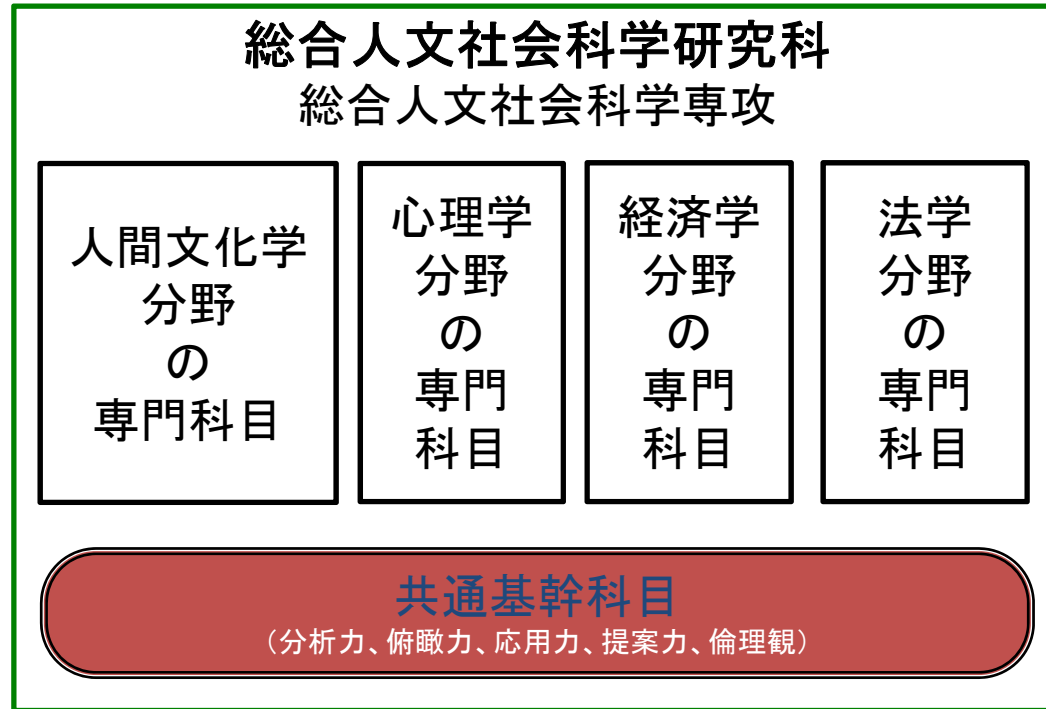
専攻別に育成するこれまでの人材像



# 今回設置する新しい修士課程

1専攻による育成する地域中核人材

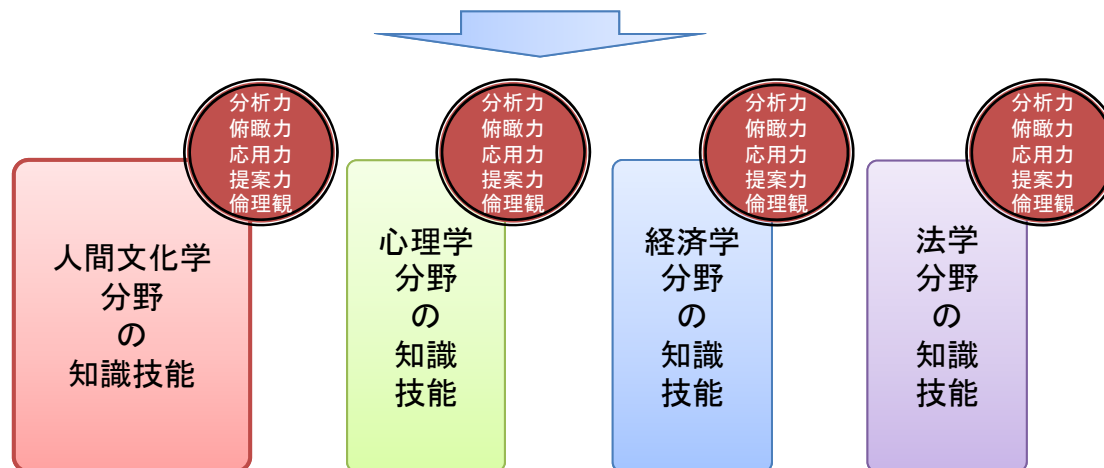
新規修士課程



専門分野の知識・  
技能と分析力等の  
共通能力の習得

地域課題の把握  
の基礎となるデー  
ターの分析方法に  
ついての共通理解  
があるため、他の  
専門家と協働して  
解決策を提案する  
ことが可能

育成人材の能力等



# 地域中核人材

育成したい新しい人材像

専門分野  
の  
知識・技能

専門基盤科目群  
分野コア科目  
専門発展科目群  
分野発展科目  
アクションリサーチ系科目

他分野と協働できる  
ジョイント(コネクター)  
を持っている

分析力  
俯瞰力  
応用力  
提案力  
倫理観



分析力  
俯瞰力  
応用力  
提案力  
倫理観

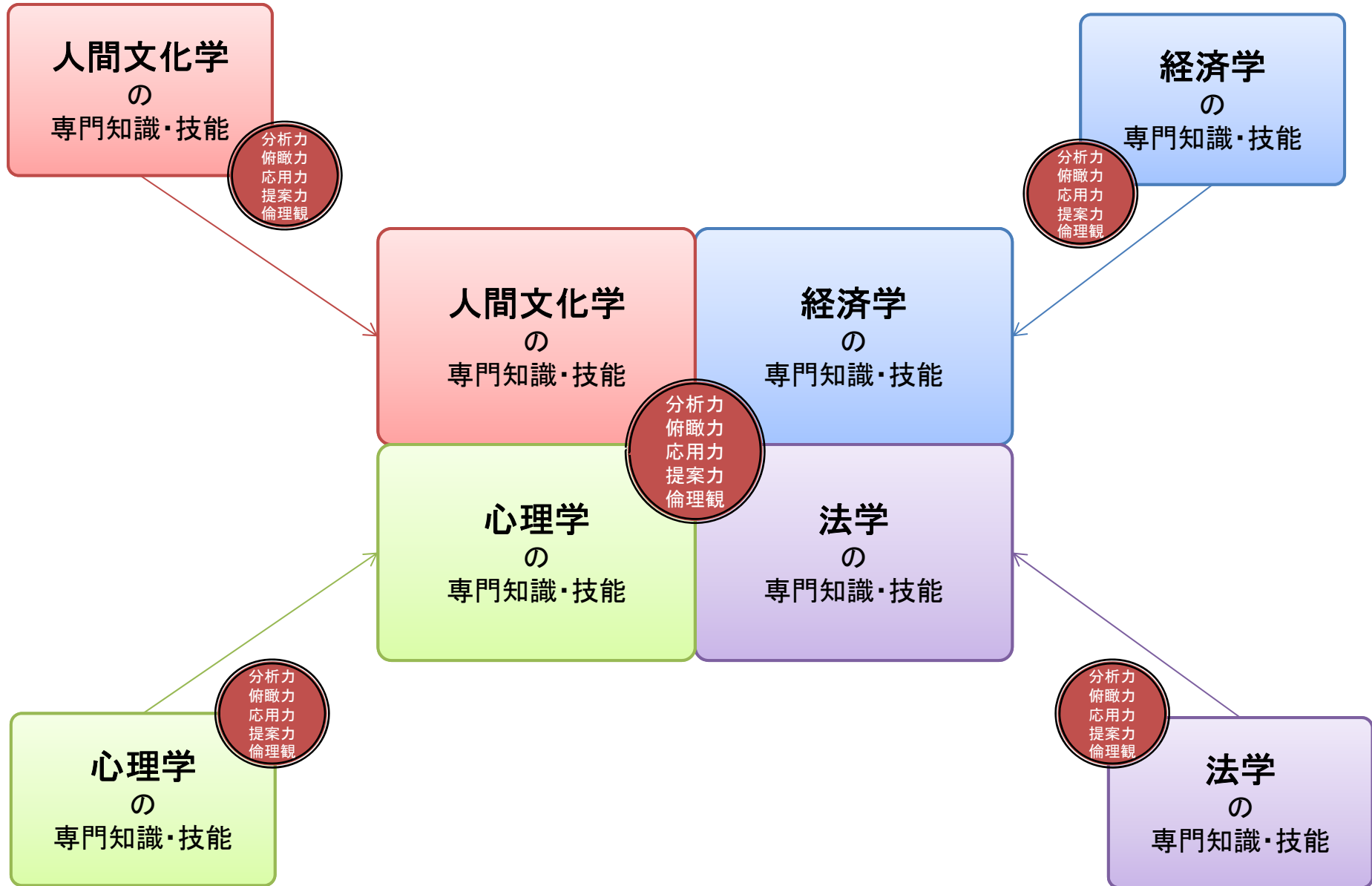
共通基幹科目群(必修8単位)  
解析手法論  
人文社会科学研究者倫理  
社会課題別PBL  
人文社会科学修論課題合同発表

専門分野  
の  
知識・技能



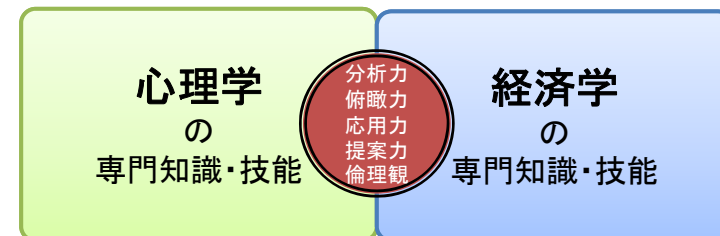
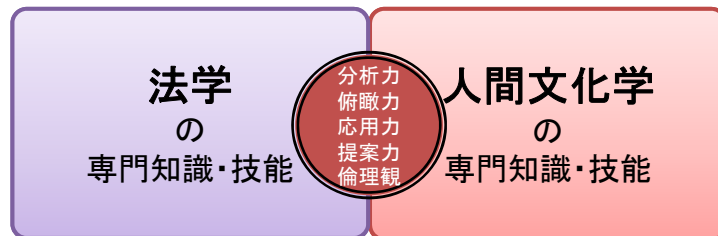
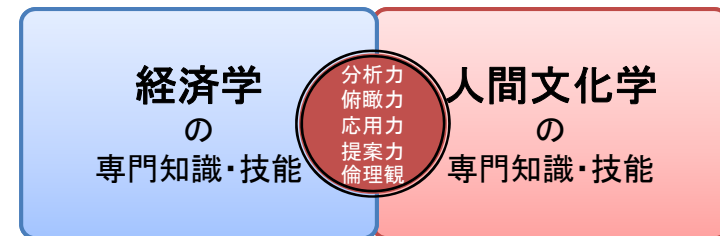
# 地域中核人材

地域課題に他者と協働して対応できる人材



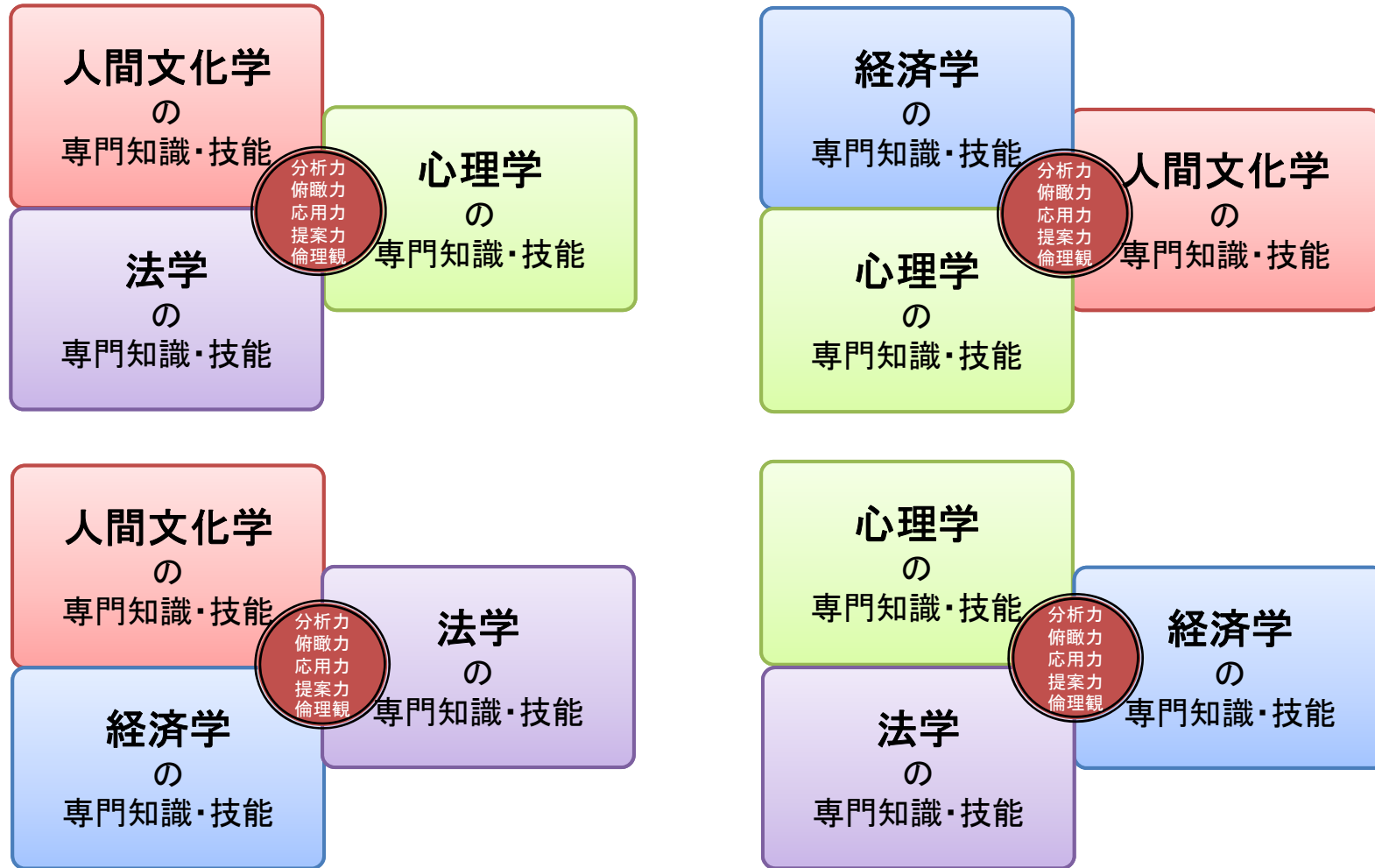
# 地域課題への対応

## 他者との協働イメージ



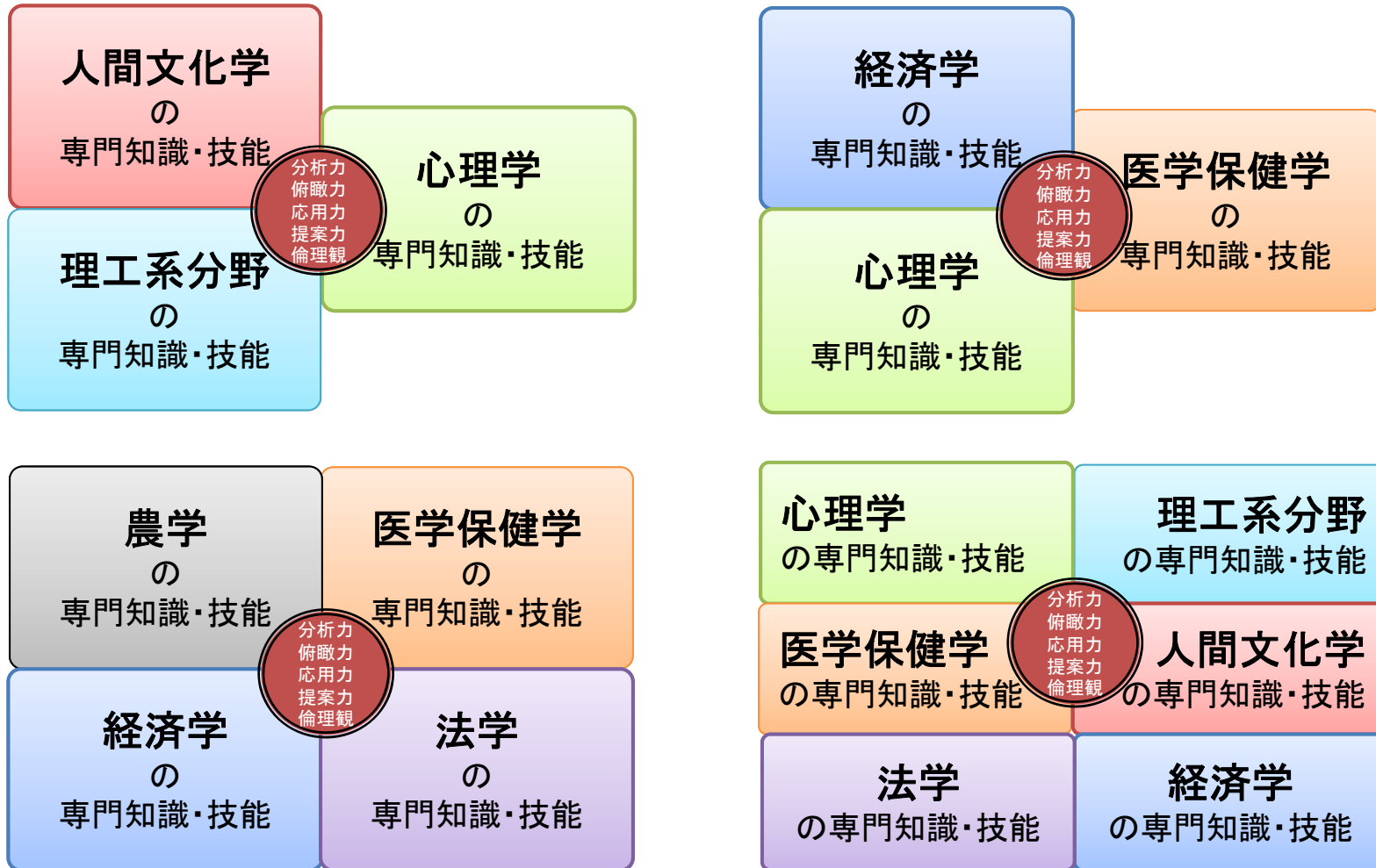
# 地域課題への対応

## 他者との協働イメージ



# 地域課題への対応

他者との協働イメージ(文系以外の専門分野)





# 地域課題への対応

学生のキャリアプランに応じた人材育成のイメージ(複数分野の素養を修得)



## 新しい学びを作る学校教員

人口減少・少子高齢化社会を迎える中で、まだ正解がなく、その学校現場ごとの状況に合わせて回答を考える課題に学校教員達は取り組まなければならない。教員志望者自らが、地域課題解決の実践経験を積むとともに、課題解決の現場で求められる「課題設定力」「創造力」「連携力」「適応力」を養う学びの場を設計するノウハウを身につける。

- ・問題把握と課題設定に取り組む柔軟な視点
- ・地域とのネットワーク構築方法
- ・合意形成のためのワークショップや会議ファシリテーション

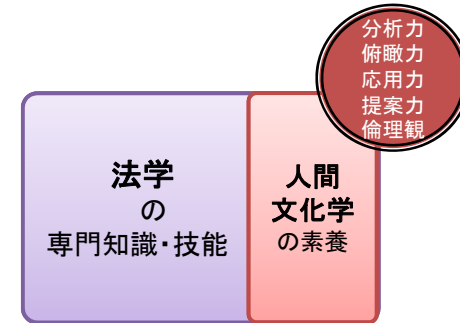
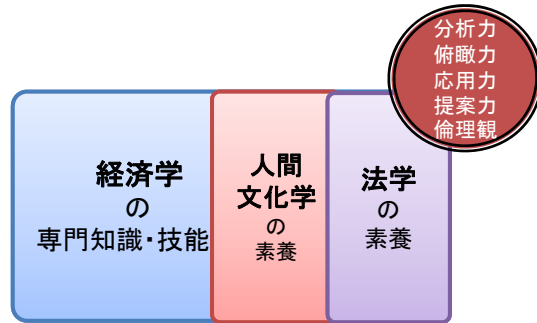
## 企業現場に即した課題解決の支援を行う産業カウンセラー

心理学の専門知識を活かして公務員や企業等への就職を目指す者は、心理学の知識・臨床の経験だけでは現場の課題解決には役立たない。経済学分野・法学分野の素養を身につけ、企業現場に即した課題解決の支援を行うことが求められる。

- ・企業現場に即した課題設定に取り組む柔軟な視点
- ・企業内のネットワーク構築
- ・合意形成のための会議ファシリテーション

# 地域課題への対応

学生のキャリアプランに応じた人材育成のイメージ(複数分野の素養を修得)



## 次世代の経営者

企業経営においては、ブランド経営や新たな企業価値/評価に対応した知識や経営ノウハウが必要となる。また自治体でもエビデンスベースの政策策定が求められている。組織が直面する課題を解決するために、総合的視点や未来志向、組織マネジメントの視点を身につける。

- ・未来を見据えた持続可能な事業構想視点
- ・社会的な存在価値のある事業構想視点
- ・ブランド構築に対する知識と経験値

## 地域に飛び出し自ら動く公務員

中心市街地の空き家の増加など、地域に潜在する課題の解決には自らが現場に足を運び、時には当事者となる必要がある。多くの課題は複合的な要素を持つため、地域の多様な人々、役所内の部署を横断的に連携させながら、法律的・文化的、様々な視点から課題解決策を提案することが求められる。

- ・地域の声を聞くためのアンケートやリサーチ手法を修得
- ・問題把握と課題設定の視点
- ・10年先を意識した政策や事業計画を立案する視点